



『もうすぐ夏休みです』

今年は、6月21日頃、平年に比べて2週間ほど遅い梅雨入りとなりました。6月の後半は、大雨の日があれば、あまり気温が上がらず肌寒さを感じる日もありました。それでも晴れの日には、気温が30度以上になり、夏本番が間近に感じられます。本校では、6月から7月にかけて体育の水泳学習を行います。今年度は、低学年、中学年、高学年、なかよし学級のまとまりで水泳の授業を行っています。プールでの約束、入水の仕方については、どの学年でも共通した指導をして、安全や児童の体調に留意し、水に親しみ、自分のめあてや目標をもって泳力を高めることができるよう指導していきます。

さて、7月は19日に終業式を行い、20日からは39日間の夏休みとなります。日本の夏休みはいつから始まったのかを調べてみました。1872年(明治5年)に学校制度が始まり、それから9年後の1881年(明治14年)に当時の文部省が小学校教則綱領で夏季休業日を定め、後に夏休みが広がっていきました。現在は法令で、小・中学校の夏季休業日は市町村の教育委員会が定めるとされています。

私の小学生時代の夏休みを思い出してみますと、大きなリュックサックを背負ってカブスカウトやボーイスカウトの夏のキャンプに行くこと、祖父母の家に弟と一緒に1週間ほど泊りに行くことが夏休みのお決まりの行事で、楽しかった思い出です。祖父母の家に泊りに行った時は、朝ごはんを食べたら夏休みの宿題をして、その後は、虫とりをしたり、自転車で出掛けたり、祖父に将棋を教してもらったり、祖母と一緒にテレビで高校野球や相撲を見たりしたことをよく覚えています。

7月の授業日数15日を終わるといよいよ夏休みとなります。夏休みは、日頃なかなかできない体験をすることのできる絶好の機会です。家族で出掛ける、行きたかった所に行く、地域の行事に参加する、興味のあることについて詳しく調べる・友達と一緒に調べる、読みたかった本を読む、やってみたかったことに挑戦してみるなど、自分でやりたいことを決めたり、家族と相談したりして計画を立てると、今から夏休みが楽しみになりますし、だらだらと過ごすのではなく、充実した休みにすることができると思います。

また、各御家庭でお子さんと相談して、いろいろな「お手伝い」を体験させてあげてほしいと思います。できれば、毎日続けてできるものがよいと思います。「お手伝い」は、家族の一員として家事のスキルや習慣を身に付けるだけでなく、お子さんの「自己有用感」を育むことができます。「自己有用感」は、自分が他者に必要とされているという感覚であり、他者からの評価によって獲得されます。初めのうちは上手くできないこともあるかもしれませんが、お手伝いをしたら必ず感謝を伝えてあげてください。すると、家族の中で自分は役に立っていることを実感し、自信をもつことができます。そして、そのことが、やってみようという挑戦する意欲や人のために自分ができることを考える気持ちに繋がっていきます。「お手伝い」には、こんな力が秘められているのです。

この1学期、本校の教育活動実施や児童の安全のために保護者の皆様、地域の皆様には、大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

保護者の皆様におかれましては、引き続き、質問や心配なことがありましたら、学校まで御連絡ください。また、お子様の普段の様子を学校に見に来ていただくことも可能ですので、その際は職員室までお声掛けください。

次回の学校だよりの発行は8月28日(水)より始まり2学期当初となります。これからも保護者の皆様、地域の皆様の御理解と御支援、御協力をどうぞよろしくお願いいたします。